



**2015 年度 河川技術に関するシンポジウム—新しい河川整備・管理の理念と  
それを支援する河川技術に関するシンポジウム— プログラム**

(6月10日～11日、東京大学農学部弥生講堂)

6月10日(水)	第1日目	開催場所：
08:30-	受付 (ポスターセッション1 設営準備)	
09:30-09:40	開会の挨拶 (河川部会部会長 松田 寛志)	一条ホール
09:40-11:10	<u>ポスターセッション1 (PS1)</u>	エントランスホール
11:20-12:10	<u>オーガナイズドポスターセッション1 (OPS1)</u> 「河床変動解析技術の現状と課題」	一条ホール
		企画・進行：河道 WG
12:10-12:20	<u>減災 WG 報告</u>	一条ホール
		企画・進行：減災 WG
12:20-13:20	昼食 (ポスターセッション2 設営準備)	
13:20-14:50	<u>ポスターセッション2 (PS2)</u>	エントランスホール
15:00-15:50	<u>オーガナイズドポスターセッション2 (OPS2)</u> 「河川堤防の効率的補強に関する技術的課題とその取り組みの方向性」	一条ホール
		企画・進行：堤防 WG
16:00-18:00	<u>特定課題オーガナイズドセッション (OS1)</u> 「河川維持管理を見据えた新たな技術について」	一条ホール
18:20-	交流会	交流会会場
		オーガナイザー：
6月11日(木)	第2日目	
08:30-	受付 (ポスターセッション3 設営準備)	
09:20-10:40	<u>ポスターセッション3 (PS3)</u>	エントランスホール
10:45-10:50	<u>特定課題 OS2 全体趣旨説明</u>	一条ホール
10:50-11:40	<u>オーガナイズドポスターセッション3 (OPS3)</u> 「河川技術の今後のあり方」 ～これから100年の川づくりのために～ 「投稿論文からの報告」	一条ホール
11:40-12:30	昼食	
12:30-16:10	<u>特定課題オーガナイズドセッション (OS2) 総合討議</u> 「河川技術の今後のあり方」 ～これから100年の川づくりのために～	
		総合司会：
12:30-13:00	仮題) 水災害分野における気候変動適応策の中間報告	一条ホール
		池内幸司 水管理・国土保全局長
13:00-13:30	<b>【基調講演】</b> 仮題) 社会変化を踏まえ都市の整備と一体化した川づくりについて	一条ホール
		中井検裕 東京工業大学教授
13:30-15:00	総合討議1：仮題) 気候変動適応策のこれからのについて [コーディネータ] 福岡 捷二 中央大学研究開発機構 教授	一条ホール
15:10-16:10	総合討議2：次代の技術者が描くこれからの川づくりについて	一条ホール
		企画・進行：戸田祐嗣, 内田龍彦
16:10-16:30	閉会式 (河川部会副部会長 服部 敦) ・優秀発表者賞の発表 ・閉会の挨拶	一条ホール

講演者等につきましては、当日の都合により変更になることもありますのでご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

## オーガナイズドセッション (OS1) ～河川維持管理を見据えた新たな技術について～

オーガナイザー：田村 浩敏

国内の社会インフラは、高度経済成長時期に多くの河川管理施設が整備され、すでに 40 年程度を経過し補修や更新の必要性に迫られつつあります。そのため、現在では、施設の長寿命化や計画的な更新時期の平準化など施設機能の維持・管理のコスト低減への対応が喫緊の課題となっています。

また、河川における大きな特徴とし、護岸整備や河床掘削などの人為的インパクトのほか、洪水等の外力による変化や樹林化などの自然的な変化等により常に基盤条件が変動しており、維持管理面での複雑化が挙げられます。

一方で、我が国には多くの機関で維持管理に関する貴重なデータがストックされており、これら過去の変遷事象を分析することで新たな視点が見えてくるものがあるのではないかと考えております。そこで、実河川における管理事例、河道や施設の状態把握から分析・評価の方法等に関わる技術、研究成果を踏まえ、維持管理という面から新たに求められる技術や研究の方向性を議論したいと考えております。

日 時：2015 年 6 月 10 日（水） 16:00～18:00

◆プログラム

1) 16:00～16:05 趣旨説明

オーガナイザー

2) 16:05～17:15 話題提供

【招待講演】（20 分）

- ・ 河川維持管理に関わる施策の動向、現状課題、今後の方向性など（仮称）  
国土交通省 水管理・国土保全局 時岡 真治

【投稿論文からの発表】（各 15 分）

（システムとしての河川維持管理）

- ・ 河川の維持管理と機能低下の基本的な特性についての考察  
（公財）河川財団 戦略的維持管理研究所長 安原 達

（堤防の維持管理）

- ・ 変状と被災の統計的解析による堤防の点検及び巡視の合理化に関する一考察  
国土技術政策総合研究所 河川研究室 下川大介

【実務者からの発表】（20 分）

- ・ 維持管理に関わる最近の研究例・実管理と実務者からみた課題（仮称）  
いであ株式会社 堀江 克也

3) 17:15～17:55 総合討議

維持管理に関する現状と今後の方向性について、パネラー意見を中心としつつ、会場出席者からも意見をいただいて議論する。

（進行）	田村 浩敏	（株）建設技術研究所
（パネラー）	時岡 真治	国土交通省
	安原 達	（公財）河川財団
	下川 大介	国土技術総合研究所
	堀江 克也	いであ株式会社
	松田 寛志	日本工営株式会社

4) 17:55～18:00 総括

オーガナイザー

オーガナイズドセッション 2 (OS2) および  
オーガナイズドポスターセッション 3 (OPS3)  
「河川技術の今後のあり方」 ～これから 100 年の川づくりのために～

オーガナイザー：松田寛志、服部敦、戸田祐嗣、藤巻浩之、内田龍彦

災害大国である我が国における社会の繁栄は、多くの河川技術者による川づくりの尽力がその礎となっております。その歴史を踏まえ、OS2 および OPS3 ではこれから 100 年の川づくりのために、私たち河川技術者が何を考え、何をしていくべきかをテーマとしました。

現代社会は本格的な人口減少に突入し、少子高齢化、国家財政の諸課題など、日本をとりまく社会情勢は前世紀に比して急激な変化が生じてきており、今後さらに複雑な変貌を遂げていくものと考えられます。一方、東日本大震災の経験、近年多発している激甚な豪雨災害、さらに気候変動を踏まえて、想定を越える様々な巨大自然災害の猛威に対するソフト・ハードの両面からの備えが求められております。

こうした大きな変革期を迎えて、河川技術が次なる時代のステージに足を踏み入れていくためには、河川技術のさらなる進展はもとより、これまで以上に都市防災学、都市・地域計画学、社会心理学など関連する諸分野との連携が必要となるでしょう。

このような背景の下、気候変動を視野に入れた長期的な方策（緩和策・適応策）について、検討がなされています。その代表的な例のひとつとして、上記の種々多様の視点を包含する水災害分野の気候変動適応策のあり方に関する社会資本整備審議会の小委員会の中間報告が挙げられます。これらの考え方を十分に理解し、さらに向上させていくために、次世代を担う研究者・実務者は視点の追加や考え方の補強など（例えば河川環境保全についても一体的に取り組む方策）について継続的に検討を加えていく必要があるでしょう。

このように、これからの河川技術を考えると、従来の取り組みを振り返りつつ、さらに深化させる方向について河川全体を俯瞰した議論を進めるとともに、関連する他分野との学際的な研究・技術開発に取り組み、河川技術がカバーする領域のすそ野を広げていくことが、今まさに求められているものと思われます。

OS2 および OPS3 「河川技術の今後のあり方～これから 100 年の川づくりのために～」では、今後 100 年を見据えた川のあるべき姿や技術開発の方向性を議論し、今後さらに考えを深めて行く上で有用な見方・考え方を抽出することを試みます。

日時：2015 年 6 月 11 日（木） 9:20～16:10

◆プログラム

1) 9:20～10:40 P S 3 ※対象論文については p.12-13 を参照ください

2) 10:45～10:50 特定課題 O S 2 および O P S 3 全体趣旨説明

- ・ O S 2 および O P S 3 趣旨説明

オーガナイザー

3) 10:50～11:40 O P S 3 「河川技術の今後のあり方」

- ・ 話題提供

- ・ 都市における豪雨時の浸水危険度評価に関する話題提供

早稲田大学理工学術院 関根正人

- ・ 局地的豪雨探知システムに関する話題提供

一般財団法人日本気象協会 片山勝之

- ・ O S 2 に向けて：会場との意見交換

(昼食休憩)

4) 12:30～16:10 O S 2 : 「河川技術の今後のあり方」

- ・ 12:30～13:00

【話題提供】仮題) 水災害分野における気候変動適応策の中間報告

国土交通省水管理・国土保全局 池内幸司

- ・ 13:00～13:30

【基調講演】仮題) 社会変化を踏まえ都市の整備と一体化した川づくりについて

東京工業大学大学院社会理工学研究科 中井検裕

- ・ 13:30～15:00

【総合討議 1】仮題) 気候変動適応策のこれからについて

[コーディネータ] 福岡 捷二 中央大学研究開発機構

[パネラー] 関根 正人 早稲田大学理工学術院

中井 検裕 東京工業大学大学院社会理工学研究科

中北 英一 京都大学防災研究所

塚原 浩一 国土交通省水管理・国土保全局河川計画課

- ・ 15:10～16:10

【総合討議 2】次代の技術者が描くこれからの川づくりについて

[進行役] 戸田 祐嗣 名古屋大学大学院工学研究科

[パネラー] 内田 龍彦 中央大学研究開発機構

中村 圭吾 国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究室

渡邊 泰也 国土交通省水管理・国土保全局河川計画課

田村 浩敏 (株)建設技術研究所

## ポスターセッション 1 (PS1)

日 時 : 2015 年 6 月 10 日 (水) 9:40~11:10

## 発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 60 分 ( 9 : 40~10 : 40)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 60 分 (10 : 10~11 : 10)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS1 発表論文等タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 流路の固定化が進行した河道における効率的な旧流路回復手法に関する検討 土木研究所 寒地土木研究所 山口里実	河道変化と 管理方策
2) 吉野川河口汽水域における護岸構造と潮間帯生物の分布に関する研究と研究成果を活かした護岸構造の提案 徳島大学大学院先端技術科学教育部 神野 威	植物の管理と 再生
3) 岩露出河川の土砂流出特性に関する流域模型を用いた実験的研究 京都大学防災研究所 長谷川祐治	土砂動態と 土砂管理
4) ダム建設および魚道設置が生息魚類に与える長期的影響の評価 国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所 林田寿文	河川環境の 評価と指標
5) アンカーアイスが結氷河川の物質循環に与える影響 株式会社福田水文センター 鈴木広卓	河川環境の 評価と指標
6) 実河川における流木観測データを用いた流れの空間構造と流木流下機構の検討 愛知工業大学工学部土木工学科 赤堀良介	河川構造物の 河道制御機能と 管理方策
7) ネットによる軟岩侵食抑制工法の開発と実河川における効果検証 北海道大学工学部 六浦和明	河川構造物の 河道制御機能と 管理方策
8) 河川津波発生時の弾力的な樋門操作による内水氾濫抑止対策に関する検討 寒地土木研究所 寒地河川チーム 阿部孝章	河川構造物の 河道制御機能と 管理方策
9) 黒部川の既設縦工群を活かした低水路交互砂州河道の是正に関する研究 中央大学大学院 加藤翔吾	河川構造物の 河道制御機能と 管理方策
10) 河床材料の空隙率および交換層厚変化を考慮した河床変動モデルの開発 土木研究所水工研究グループ水理チーム上席研究員 石神孝之	河道水理と 河床変動解析

11) 木曾川大規模深掘れにおける渦構造と深掘れ拡大要因の推定 株式会社建設技術研究所中部支社河川部 西澤諒亮	河道水理と 河床変動解析
12) 現地河川への適用を考慮した空隙率の変化を反映した河床変動計算 株式会社建設技術研究所 中部支社河川部 細井寛昭	河道水理と 河床変動解析
13) 石礫の輪郭形状に着目した河床間隙の評価と移動床現象に関する考察 名古屋大学減災連携研究センター 田代 喬	河道水理と 河床変動解析
14) 河床材料の粒度組成と落差工の有無が土砂動態に及ぼす影響 —御勅使川 と大武川を例として— 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 Lin Wenshin	河道変化と 管理方策
15) 中小河川の土砂堆積軽減に向けた効率的維持管理手法に関する一提案 国立高専機構阿南高専 長田健吾	河道変化と 管理方策
16) 河道幅が漸縮する湾曲部における流水流路幅の経年変動に関する研究 北見工業大学大学院 社会環境工学専攻 北尾智紀	河道変化と 管理方策
17) 全国一級水系における河道容積の年平均変化率について 株式会社 ドーコン 舛屋繁和	河道変化と 管理方策
18) 超音波減衰スペクトル計による SS 測定に用いる等価球形散乱体モデルの提 案 電源開発株式会社 土木建築部 古川仁志	計測技術と モニタリング
19) CCTV カメラを用いた水位観測精度の向上に向けた検討 国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所調査課 山田真也	計測技術と モニタリング
20) 画像解析による河川流速計測の適用性向上と効率化に向けた撮影・標定技術 の開発 株式会社東京建設コンサルタント 環境モニタリング研究所 小林範之	計測技術と モニタリング
21) 蛍光 X 線分析を利用した河川土砂礫のマクロ的な分布特性に関する基礎的 検討 富山県立大学大学院 南 優平	計測技術と モニタリング
22) 拡張 ISO 高感度カメラを用いた STIV 画像解析と DIEX 法による河川流量観 測 株式会社福田水文センター 橋場雅弘	計測技術と モニタリング
23) 鉛直二重管吸引工法による排砂実験およびその排出土砂濃度の推定方法 電源開発(株) 技術開発部 茅ヶ崎研究所 前田圭介	計測技術と モニタリング
24) 8 年間にわたる H-ADCP 流量モニタリングシステムの運用と精度検証 東京工業大学大学院 中村友洋	計測技術と モニタリング
25) 河川水辺の国勢調査と緑の国勢調査を活用した流域環境管理の基礎的検討 —鳥類の生息適地評価をもとに— 国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室 前田義志	生物の 生息・生息環境と その保全と創出
26) 中小河川における河川環境に配慮した河道設計支援ツールの開発 国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ 自然共生研究センター 大石哲也	生物の 生息・生息環境と その保全と創出

27) 水田排水による河川濁度上昇に関する現地研究 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 環境理工学創造専攻 張 怡	生物の 生息・生息環境と その保全と創出
28) 菊池川において氾濫原依存魚種保全を目的に造成された伏流水流入ワンド の有効性評価 熊本大学大学院自然科学研究科社会環境マネジメント講座 皆川朋子	生物の 生息・生息環境と その保全と創出
29) 二瀬ダム下流の粗粒化河道におけるダム還元土砂の動態評価 埼玉大学大学院 理工学研究科・(兼)埼玉大学レジリエント社会研究センター 田中規夫	土砂動態と 土砂管理
30) 河道に造成されたワンドの形状が土砂堆積に及ぼす影響 東京大学大学院 工学系研究科 浅井淳平	土砂動態と 土砂管理

### オーガナイズドポスターセッション 1 (OPS1)

日 時 : 2015 年 6 月 10 日 11:20~12:10  
 テーマ : 河床変動解析技術の現状と課題  
 企画・進行 : 河道 WG

#### ◆企画趣旨

今年度は河床変動, 河川構造物, 河道管理といったテーマに多くの論文が投稿されている。河床変動解析は, 空隙率・軟岩・礫形状といったものにも踏み込み, より現場の状況に即した解析を目指している。河川構造物は現地適用の適用性についての報告事例が目立ち, 河道管理に関しては, 樹木群, 広域の河道形状, 砂州の動態を捉えようとしている研究が多い。これらの他に土砂動態自体を扱っているものもあることから, これらをうまく統合すれば河道における河床変動の解析はより一層高度化するようにも思われる。しかしその前に, 河道の問題を扱う上でここに足りていない要素はないのだろうか? また, 同じ対象を扱っている研究者同士でもアプローチも注目点も全く異なっており, 切磋琢磨できる状況にないのではないだろうか? さらに, 上述した「河道」に関わる様々な研究者の研究を「つなぐ」ためには, 何が必要なのだろうか? 本 OPS では, 官民学それぞれの立場から論文の傾向を分析し, これからの河道研究に求められている視点や方法論について議論する。



## ポスターセッション2 (PS2)

日 時： 2015 年 6 月 10 日 (水) 13:20~14:50

## 発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 60 分 (13:20~14:20)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 60 分 (13:50~14:50)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS2 発表論文等タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 統計手法による河道内植生消長シミュレーションモデルの構築 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 岩見 聡	河道内樹木の 生態と管理
2) 固定砂州の掘削による中小洪水営力を用いた樹林化抑制と水衝部対策について (株) 建設技術研究所中部支社 岩見収二	河道内樹木の 生態と管理
3) 新たな空間指標「群落クラスター」を用いた植生動態の再現・予測手法の開発 国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ 河川生態チーム 田頭直樹	河道内樹木の 生態と管理
4) 植生砂州における洪水後脱窒ポテンシャルの定量化の試み 名古屋大学大学院工学研究科 尾花まき子	河道内樹木の 生態と管理
5) 江の川下流部における水害防備林が持つ治水効果を活用した維持管理方策 いであ株式会社 大阪支社水圏部 青木健太郎	河道内樹木の 生態と管理
6) 老朽化した砂防関係施設の健全度及び対策優先度に関する定量的な評価手法の提案 京都大学大学院農学研究科 原田紹臣	河川構造物の 河道制御機能と 管理方策
7) 潜行吸引式排砂管の現地排砂実験による実用化に向けた検討 土木研究所 水工研究グループ 水理チーム 宮川 仁	河川構造物の 河道制御機能と 管理方策
8) 「巨石付き盛土砂州を用いた河岸防護工」の機能維持確保のための技術検討 国土交通省北陸地方整備局 河川部 河川計画課 丸山和基	河川構造物の 河道制御機能と 管理方策
9) 「巨石付き盛土砂州を用いた河岸防護工」の巨石に代わる二次製品の開発 国土交通省北陸地方整備局 河川部 河川計画課 河川環境係長 工藤裕之	河川構造物の 河道制御機能と 管理方策
10) 河川津波を対象とした樋門ゲート前面における結氷抑制対策の提案 国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部 帯広河川事務所 佐藤好茂	河川構造物の 河道制御機能と 管理方策

11) 砂礫州切り下げ後の長期植生動態解析に基づく樹林化抑制効果の確率論的検討 埼玉大学大学院 理工学研究科 八木澤順治	河道内樹木の生態と管理
12) 河道掘削後の河川氾濫原の変化過程に関する考察 土木研究所 水環境研究グループ 池田 茂	河道変化と管理方策
13) 扇状地の中小河川における部分拡幅工法の有効性 岐阜大学流域圏科学研究センター 原田守啓	河道変化と管理方策
14) 急流河川における長期的な流路変動特性の分析 国土交通省北海道局水政課 桑村貴志	河道変化と管理方策
15) 台風18号の小洪水がもたらした河岸災害の教訓と維持管理の必要性 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所調査課調査係長 瀬尾敬介	河道変化と管理方策
16) 取水用砂堰の繰返し崩壊による大規模砂州の形成・河幅縮小軽減策の研究 中央大学研究開発機構 後藤岳久	河道変化と管理方策
17) 河川上流部での非接触型流速計測法を用いた高水流量観測の実用化 前橋工科大学大学院 恩田実之留	計測技術とモニタリング
18) CCTVカメラと遠赤外線カメラを用いた画像処理型流速測定法の実用化 国土交通省九州地方整備局河川部 梅田真吾	計測技術とモニタリング
19) オニビシ群落制御による環境改善手法の検討 株式会社 水辺環境研究所 入江光一郎	生物の生息・生息環境とその保全と創出
20) 渡良瀬川における植物成長調整剤を用いた効率的・効果的な堤防植生管理手法の提案 渡良瀬川堤防管理技術検討会事務局 (公財) 河川財団 河川総合研究所 大澤寛之	堤防管理
21) イノシシの堤防掘り返し被害対策に関する一考察 国土交通省関東地方整備局渡良瀬川河川事務所調査課 大山 修	堤防管理
22) 変状と被災の統計的解析による河川堤防の点検及び巡視の合理化に関する一考察 国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室 下川大介	堤防管理
23) 基盤の地盤特性が異なる河川堤防の高水位の継続作用による漏水とパイピングの進行特性 名古屋工業大学 齊藤 啓	堤防破壊機構
24) 透水性基礎地盤に起因する河川堤防の被災過程と浸透流解析結果の分析 国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室 森 啓年	堤防破壊機構
25) 透水性基礎地盤に起因する河川堤防の進行性破壊に関する模型実験 国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室 倉田大輔	堤防破壊機構
26) 河川堤防の効率的補強に関する技術的課題とその取り組みの方向性 名古屋工業大学 高度防災工学センター 前田健一	堤防破壊機構

<p>27) 河川堤防の進行性破壊における破壊形態へ基礎地盤および堤体地盤材料の土質が与える影響の分析          国立研究開発法人土木研究所土質・振動チーム 吉田直人</p>	堤防破壊機構
<p>28) 千代田実験水路における根固めブロックによる破堤氾濫流の抑制効果          国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部 帯広河川事務所 飛田大輔</p>	堤防破壊機構
<p>29) 河川堤防の透気・防水性シート敷設による間隙空気噴発の抑制効果          岐阜大学 大場敬士</p>	堤防破壊機構
<p>30) 河川近傍砂礫層の透水性と河川伏流水の流動特性に関する考察          群馬大学大学院 野中航太</p>	堤防破壊機構
<p>31) 河川堤防樋門周辺地盤内のゆるみ領域や空洞の生成・発達に関する模型実験          名城大学 崔 瑛</p>	堤防破壊機構

## ポスターセッション3 (PS3)

日 時 : 2015 年 6 月 11 日 (木) 9:20~10:40

発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 60 分 ( 9 : 20~10 : 20)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 60 分 ( 9 : 40~10 : 40)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS3 発表論文等タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 局地的豪雨探知システムの開発 一般財団法人日本気象協会 事業本部 防災ソリューション事業部 水防ソリューション課 片山勝之	洪水予測手法 の検討
2) 河川における DAD 特性を考慮した PMP(可能最大降雨量)の算定に関する研究 一般財団法人国土技術研究センター 河川政策グループ 湧川勝己	洪水予測手法 の検討
3) 2013 年島根県西部豪雨を対象とした WRF によるダウンスケール実験 広島大学大学院工学研究科 北 真人	洪水予測手法 の検討
4) 台風時の降雨量推定手法に関する研究 損害保険料率算出機構 松本幸大	洪水予測手法 の検討
5) 浸水被害予測技術の現状と課題 首都大学東京 都市基盤環境工学専攻 天口英雄	洪水予測手法 の検討
6) 流域内のリアルタイム観測情報を用いた洪水予測の不確実性低減方法の比較 日本工営株式会社 中央研究所 一言正之	洪水予測手法 の検討
7) 全国初となる安倍川流砂系における総合的な土砂管理の取り組み 静岡河川事務所調査課長 川上哲広	土砂動態と 土砂管理
8) 市民普請による間伐材水制導入と川づくりへの意識向上効果 九州大学大学院工学研究院 林 博徳	河川構造物の 河道制御機能 と管理方策
9) 江戸川流頭部の河道計画の策定 — 先導的な 数値解析を中心とした新しい河道設計技術 国土交通省関東地方整備局河川部河川計画課 小淵康正	河道水理と 河床変動解析
10) 鬼怒川下流部における泥岩・沖積粘性土層の露出河道の侵食特性について 公益財団法人河川財団 河川総合研究所 小川愛子	河道変化と 管理方策

11) 河川の維持管理と機能低下の基本的な特性についての考察 (公財)河川財団 河川総合研究所 安原 達	河道変化と 管理方策
12) 3種の航空測量技術を使用した河道地形の効率的測定の実装展開に向けた比較検討 株式会社ウエスコ 環境計画事業部岡山自然環境課 佐貫方城	計測技術と モニタリング
13) 河川が形成した谷底低地の微地形とその河川地形学的意味に関する考察 株式会社 キタック 涌井正樹	洪水被害に 関する影響評価 および減災対策
14) 実績台風進路に基づく防災事前行動計画の作成とそれを支援する類似台風 検索システムの構築 (株)建設技術研究所大阪本社水システム部 由良英作	洪水被害に 関する影響評価 および減災対策
15) 地震と洪水の複合災害に関する被害試算と対策効果の分析 国土交通省 国土技術政策総合研究所 企画部 国際研究推進室 福原直樹	洪水被害に 関する影響評価 および減災対策
16) 流域治水による合流式下水道雨天時越流水の 流出抑制に関する研究 -東京 都善福寺川を事例として- 九州大学大学院工学府 岩永祐樹	洪水被害に 関する影響評価 および減災対策
17) 都市浸水予測技術による豪雨時の神田川流域の雨水排除機能と浸水危険度 に関する評価 早稲田大学理工学術院 関根正人	洪水被害に 関する影響評価 および減災対策
18) 水害時の住民避難のための意思決定とリスク評価・専門家の活用に関する研 究 復興庁 関 克己	洪水被害に 関する影響評価 および減災対策
19) 雨水調節池による内水氾濫軽減効果に関する基礎的研究 京都大学防災研究所 川池健司	洪水被害に 関する影響評価 および減災対策
20) 過疎地域中小河川における水害時の避難支援計画のための地域分析 琉球大学大学院理工学研究科 峰 翔太	洪水被害に 関する影響評価 および減災対策
21) 豪雨による洪水・土石流の発生を想定したマルチ・ハザードと避難判断基準 に関する研究 建設技術研究所大阪本社水システム部 金 淵中	洪水被害に 関する影響評価 および減災対策
22) 治水主体の河川管理から包括的流域管理へ 九州大学工学研究院 島谷幸宏	これからの河 川技術
23) 河川の環境管理を推進するための課題と方向性 国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室 中村圭吾	生物の 生息・生息環境と その保全と創出
24) 地域との協働による多様性に富んだ堤防植生づくりと維持管理「七草堤防プ ロジェクト」について 七草堤防プロジェクト事務局 (公財)河川財団 河川総合研究所 久保壮史	堤防管理
25) 様々な洪水規模に対する河道-構造物群システムの応答シナリオに基づく氾 濫リスク・減災効果評価 国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 竹中 裕基	氾濫解析と浸 水被害軽減策
26) Rice-Crops Flood Damage Assessment in the Pampanga River Basin of the Philippines International Centre for Water Hazard and Risk Management (ICHARM), Public Works Research Institute (PWRI) Badri Bhakta SHRESTHA	氾濫解析と浸 水被害軽減策

### オーガナイズドポスターセッション3 (OPS3)

日時 : 2015年6月11日(木) 10:50~11:40

テーマ : 河川技術の今後のあり方

企画・進行 : 松田寛志、服部敦、戸田祐嗣、藤巻浩之、内田龍彦

#### ◆企画趣旨

「OPS3」及び「OS2(p.4-5頁参照)」は「河川技術の今後のあり方」を議論する一連の議論を構成するものとしています。OPS3では、PS3での発表論文等のなかから、OS2における討議に特に深く関わる代表2編の論文著者から話題提供してもらい、OS2に向けた質疑応答を行います。